

深川組仏教壮年会 研修旅行に参加して



西法寺仏教壮年会会長
古河和博

この度、2月11日(土)に亀山本徳寺と姫路城への研修旅行に参加させて頂きました。当日はこの冬一番の冬将軍。大雪警報発令中。集合場所へ行ってみますと既に全員が集まり、バスの到着を待っていました。各寺集合場所を巡り、バスは山陽道に乗りいざ姫路へ。雪の心配も無く、途中の吉備SAでは、抜けるような青空を仰ぎました。

予定より少し早く本徳寺へ到着、大門を入り広い本堂へ案内されました。ストーブはありましたが、体は芯まで冷え、頭の中までシャキッてありました。順徳寺住職の調声で讃仏偈のお勤めの後、本徳寺・大谷昭仁住職による法話がありました。



本徳寺は1515年に播州の英賀(あが)に建てられたのが始まりで、石山戦争の終盤に秀吉によって陥落。後に亀山に移転し、現在に至っているそうです。現本堂は嘗て京都西本願寺にあった北集会所でした。幕末には新撰組の屯所として使用され、隊士が付けたとされる刀傷が残っていました。1873年に西本願寺より亀山に移築されました。NHKの「新撰組」や「軍師官兵衛」のロケに使用されました。作家の五木寛之氏が訪れたとき、国家主導型の旧仏教



▲本徳寺渡り廊下 対面所へ向かう

の装飾性を嫌い、質朴として天にそそり立つ巨大な伽藍の前に、浄土真宗の寺院が民衆の法城として誕生したことに思いを馳せられたそ

せん。南無阿弥陀仏は現実を受け入れて歩ませて頂く。言い方を変えると自分が自立することと答えるそうです。

本徳寺参拝後、姫路城(別名/白鷺城)へ。ガイドさんの説明を聞きながら見学。現在の城は、1601年から8年かけて池田輝政により改築されました。新幹線の車窓から見える姿とはまた違い、優雅であり、荘厳な作りを目の

うです。私も大谷住職のお話を聞き、民衆が、自分たちのいのちよりも大事な心の依りどころとして寺を建て護り、幾多の存亡の危機を乗り越えてきたことに感慨を深めました。本徳寺の門徒はゼロ(無)だそうです(別格別院)。お参りの方から「南無阿弥陀仏を称えたら何か御利益(病気になるかとかの)がありますか」とよく質問されるそうです。その返事として、「そのようなものはありま



▲姫路城大柱(心柱)400年前の縦/木

作りを目の当たりにして、日本の木造建築のレベルの高さに触れることが出来ました。



今回、沢山の方々のお陰で、日本の素晴らしい文化に改めて魅了されました。ありがとうございました。